

愛知県経済の現状と見通し<2013年5月>

1. 総括判断

景気の現状	景気は緩やかに持ち直し	基調判断の前月との比較(注1)	➡	水準評価(注2)	☀️ ☁️
当面の見通し	持ち直しの動きが持続する見通し		➡		☀️ ☁️



2. 個別項目の動向

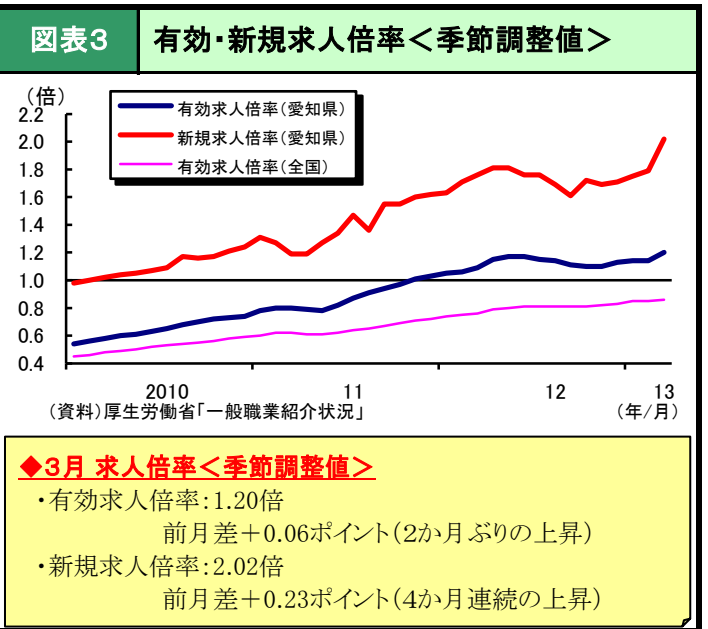
個人消費	基調判断	持ち直しの動き		
	基調判断の前月との比較	➡	水準評価	☁️
<p>◀️現状▶️</p> <p>○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、3月の名古屋市内百貨店販売額は、前年比+5.2%と2か月連続の増加。</p> <p>○品目別にみると、主力の衣料品(前年比+5.8%)が2か月連続で大幅にプラスとなったことに加え、飲食料品(同+1.1%)も4か月ぶりにプラス転換。株価上昇等を背景とした消費マインドの改善を受けて貴金属や宝石、腕時計などを含む「その他の商品(同+7.8%)」も好調が持続。</p> <p>○一方、4月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、23,426台・前年比+2.3%と微増ながら8か月ぶりのプラス転換。</p> <p>○車種別にみると、前月まで軽乗用車(前年比▲0.0%)に比べて落ち込みの大きかった、普通車(同+3.9%)、小型車(同+3.0%)が大幅マイナスからプラス転換したことが寄与。</p> <p>◀️見通し▶️</p> <p>○円安進行の影響を受けて輸入高級ブランド品等は価格改訂(値上げ)の動きもあり、消費動向への影響も心配される状況。株式等資産価格の上昇や値上がり前の買い急ぎの動き等も一部にみられるなど消費は比較的堅調に推移する見通し。</p> <p>○乗用車についても、エコカー需要等が根強く新型車投入への期待があることに加え、消費税率引き上げ前の購入需要などが期待されており、先行きの販売動向は堅調に推移する見通し。</p>				
図表1 名古屋市・百貨店販売額<前年比>				
		<p>(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)</p>		
		<p>◆3月 名古屋市・百貨店販売額</p> <p>365億円 前年比+5.2%(2か月連続の増加)</p> <p>・うち衣料品 前年比+5.8%(2か月連続の増加)</p>		
図表2 新車乗用車販売台数<前年比>				
		<p>(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」、 (年/月)</p>		
		<p>◆4月 新車乗用車販売台数<含む軽></p> <p>23,426台 前年比+2.3%(8か月ぶりの増加)</p>		



(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️:上方修正、➡️:据え置き、↘️:下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

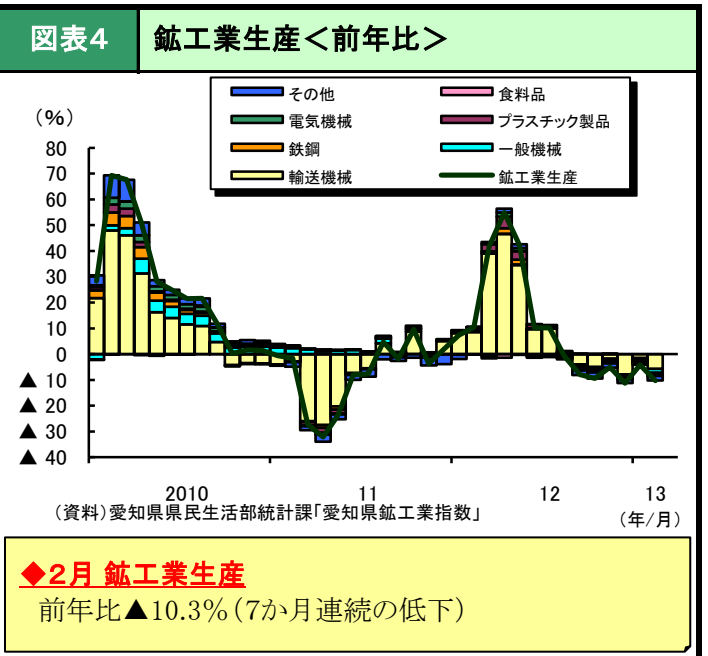
(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀️:晴、☀️☁️:晴～曇、☁️:曇、☁️🌧️:曇～雨、🌧️:雨、を示す。



お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 別府
	電話: 059-354-7102

雇用情勢	基調判断	持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
<p>《現状》</p> <p>○3月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)は1.20倍と2か月ぶりに上昇。一方、新規求人倍率(同)は2.02倍と4か月連続で上昇。</p> <p>○全国比較でみると、愛知県の有効求人倍率は4位、新規求人倍率は2位といずれも高いレベル。</p> <p>《見通し》</p> <p>○円が1ドル=100円を超えて推移するなどの市場環境を背景に自動車を中心とした輸出型産業の生産は堅調に推移しており、求人動向も上昇基調で推移する見通し。</p>				



企業活動	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
<p>《現状》</p> <p>○2月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比▲10.3%と7か月連続のマイナス。県内の生産動向に大きな影響を与える輸送機械(同▲10.8%)の生産が減少したことが主因。</p> <p>《見通し》</p> <p>○愛知県の鉱工業生産に影響力の大きいトヨタ自動車の国内生産動向をみると7か月連続の前年比マイナス。</p> <p>○もともと、前年の反動により数字上、輸送機械の生産指数がマイナスに出る傾向があるため、生産の実態としては好調さを維持する見通し。</p>				



輸出	基調判断	緩やかに持ち直し		
	基調判断の前月との比較		水準評価	
<p>《現状》</p> <p>○3月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比+5.0%と3か月連続の増加となったものの、伸び幅は徐々に縮小傾向。</p> <p>○仕向地別にみると、米国向け(前年比+8.6%)が3か月連続、アジア(除く中国)向け(同+4.3%)が14か月連続の増加となったものの、中国向け(同▲3.1%)が9か月、西欧向け(同▲2.5%)が2か月連続の減少。</p> <p>《見通し》</p> <p>○一般機械は中部5県主要メーカーの海外受注高(3月:前年比▲8.7%)が2か月ぶりのマイナスとなったものの、円安が進むなかで米国向けなどの輸出は堅調に推移する見通し。</p>				

